

ラオス農村における住み込み型協働調査と フィールドワークの安心安全構築



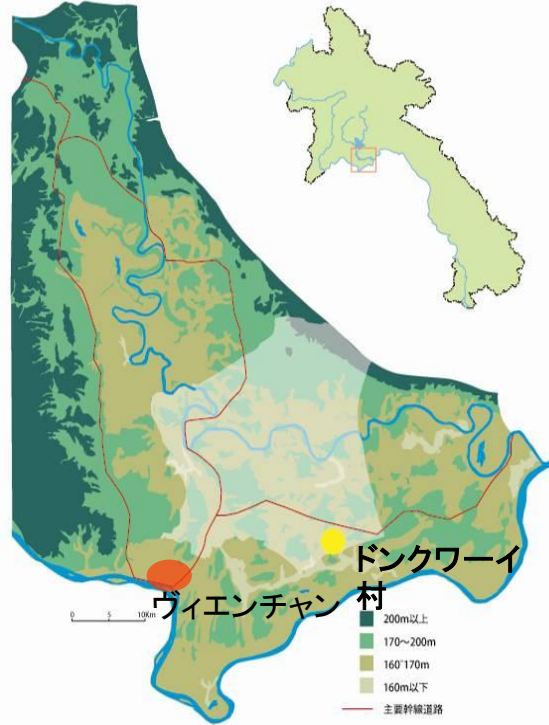
野中健一
(立教大学文学部)



今日の報告

- フィールドワークによる村落調査の実現過程
(長期住み込み、多分野の協働)
- 現地調査をめぐる状況変化への対応
(社会、現地への還元、調査者)
- フィールドワーク促進
 大学院生の主体的フィールドワーク支援体制作り

今日はラオス村落調査の報告



ラオスでの共同研究の歴史

1995 「東南アジア大陸部における農業の変貌」石田財団研究助成(1995~1996年度)

暗中 模索時代

2002 「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史モデルの構築」
総合地球環境学研究所プロジェクト(2002~2007年度)

ラオス平地生態:ズブズブ班 農学・環境科学・生態学・地理学・歴史学・人類学者の共同

2006

「東南アジア平原地帯における複合的な資源利用とその持続的発展に関する研究」科研A(野間晴雄代表)(2006~2009年度)

+ 伝統研究地域との比較

「海外フィールドワークにおける地理学知の還元モデルの構築に関する研究」科研B(岡本耕平代表)(2008~2010年度)

+ 異なる地域研究者

「ラオスから発信する自然資源食料利用とその未来可能性」トヨタ財団研究助成(野中代表)(2007~2008年度)

+ 医学・保健系 + 山へ

「東南アジア天水田稲作における産米林の機能解明と活用」科研A(2007~2009年度)

2010

「微量元素からとらえる環境利用と文化的適応の地理学的研究」
科研A(野中代表)(2010年4月~)

+ ラオスの山へ他地域へ

「熱帯の産米林農業に在来する生物の機能を活用した農業生産と資源利用との調和」科研A(宮川修一代表)(2011年4月~)

+ 実学とロマンへ?

ビエンチャン平野を生態史的にとらえる

きっかけ: 総合地球環境学研究所プロジェクト課題 2003~2008

1945

1945年

「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究: 1945-2005」

↓

1980年代

グローバリズムの波

市場経済の浸透

工業化

消費増加

商品作物栽培

近代的資源管理

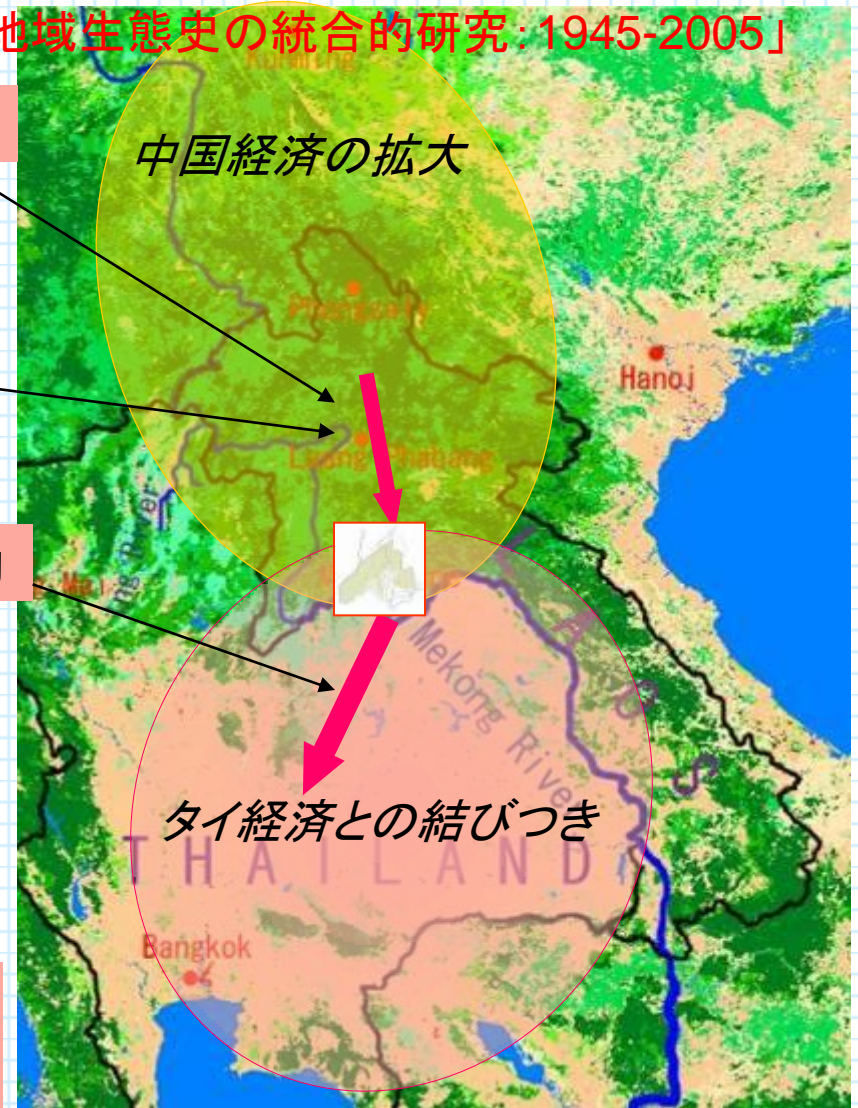
稲作集約化

森林伐採禁止

内戦による移住

政策移住

労働力移動



平野の動き

集落再編成と自然資源利用の変化

村領域の拡大と都市との結びつき

消費増加にともなう日常食料資源の市場化

森林資源から水田周辺資源へ

ビエンチャン平野・サイタニー郡を対象

研究の枠組みと地域設定

1)対象地域 東南アジアの平野の稲作地帯

比較を通じた一地域への収斂

(ヴィンチャン平野→サイタニー郡→**ドンクワイ村**)

環境－人間の総合的解明の焦点として1地域をとらえる(広域から1村へ)

人のミクロな動きに注目してダイナミズムの解明を目指す

2)水^{を軸とした環境と人間活動}

水供給地として、アジアの環境問題の焦点

水位変動・それに伴う水域の変化、

湛水期間の変化は、作物生産、生物獲得に

大きな影響を及ぼす

環境の特徴の把握・生業活動



多分野の協働

稲作本位制からの脱却



MOU(国立農林業研究所NAFRI)と

2003.12

調査許可便宜・資料持ち出し申請

サイタニー郡を推奨される

アシスタント、諸経費

＋ラオス国立大学地理学科



彼女はなぜこんなことをやっているんだろう？

森？池？



水引けば



田んぼ？原っぱ？





12 December

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



ໂຮງຮຽນສຶກສາສາວະນະສາດ ສາວະນະສາດ ສາວະນະສາດ

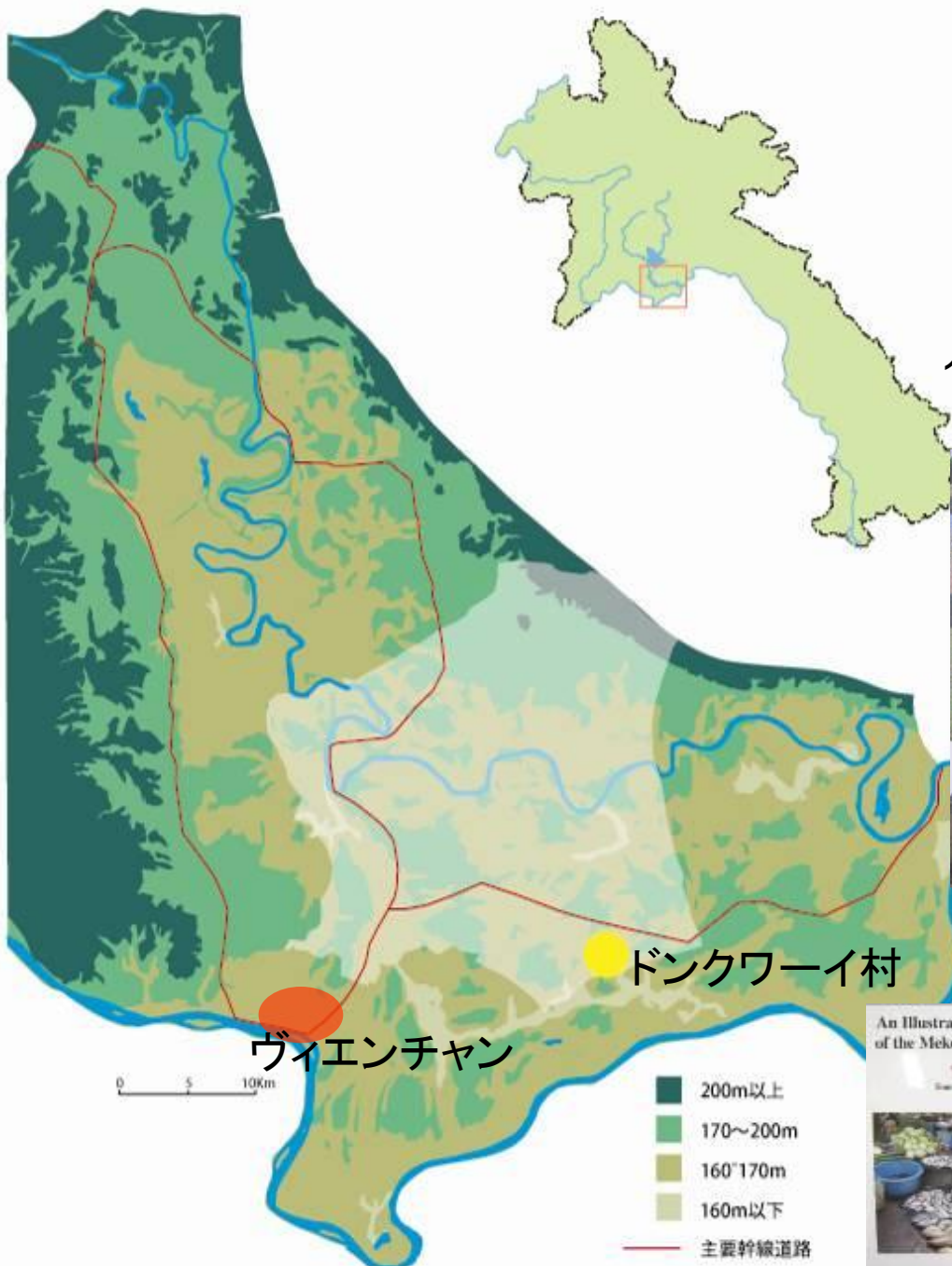
January 1 February 2 March 3 April 4

May 5 June 6 July 7 August 8

September 9 October 10

ZUBZUB

Work and Ecology Where Culture and Nature Merge



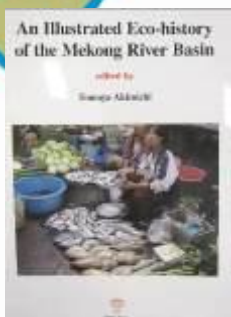
1959



1966



2008



サイタニー郡104村の村落類型区分 (2004年悉皆調査)

III いなか・水アクセス悪し



I 都市化・水アクセス良し

- I
- II
- III
- IV

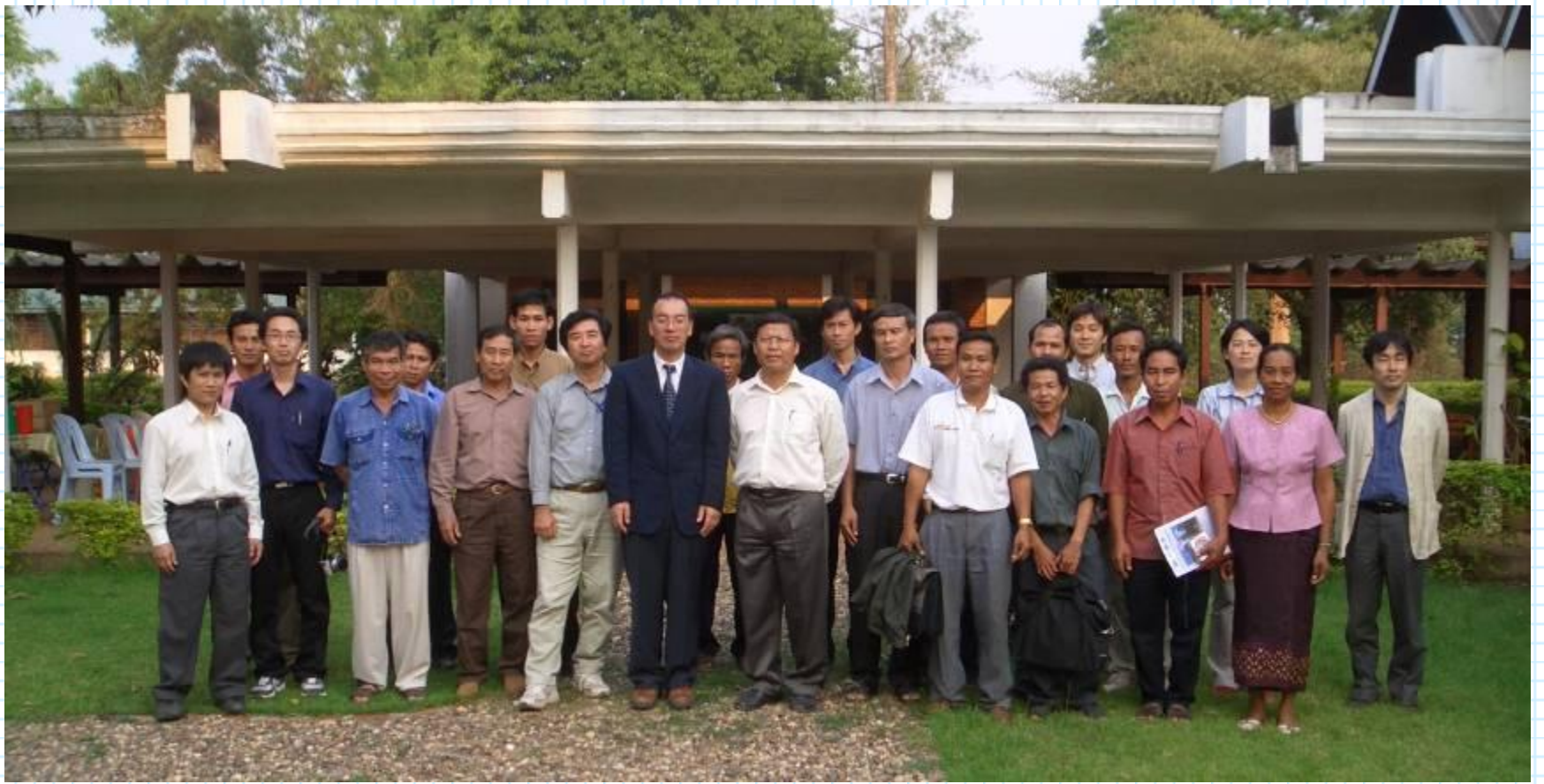
IV 都市化・水アクセス悪し

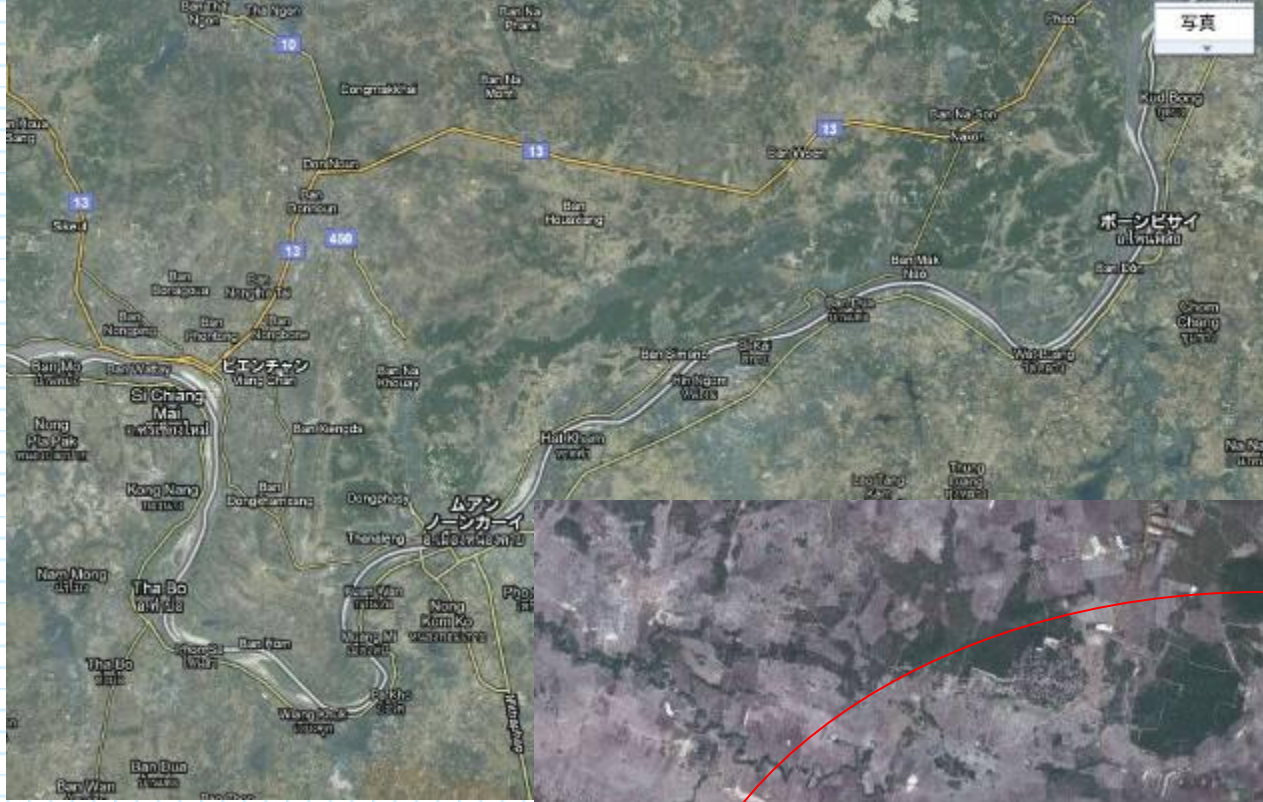
II いなか・水アクセス良し

ドンクワイ村への注目

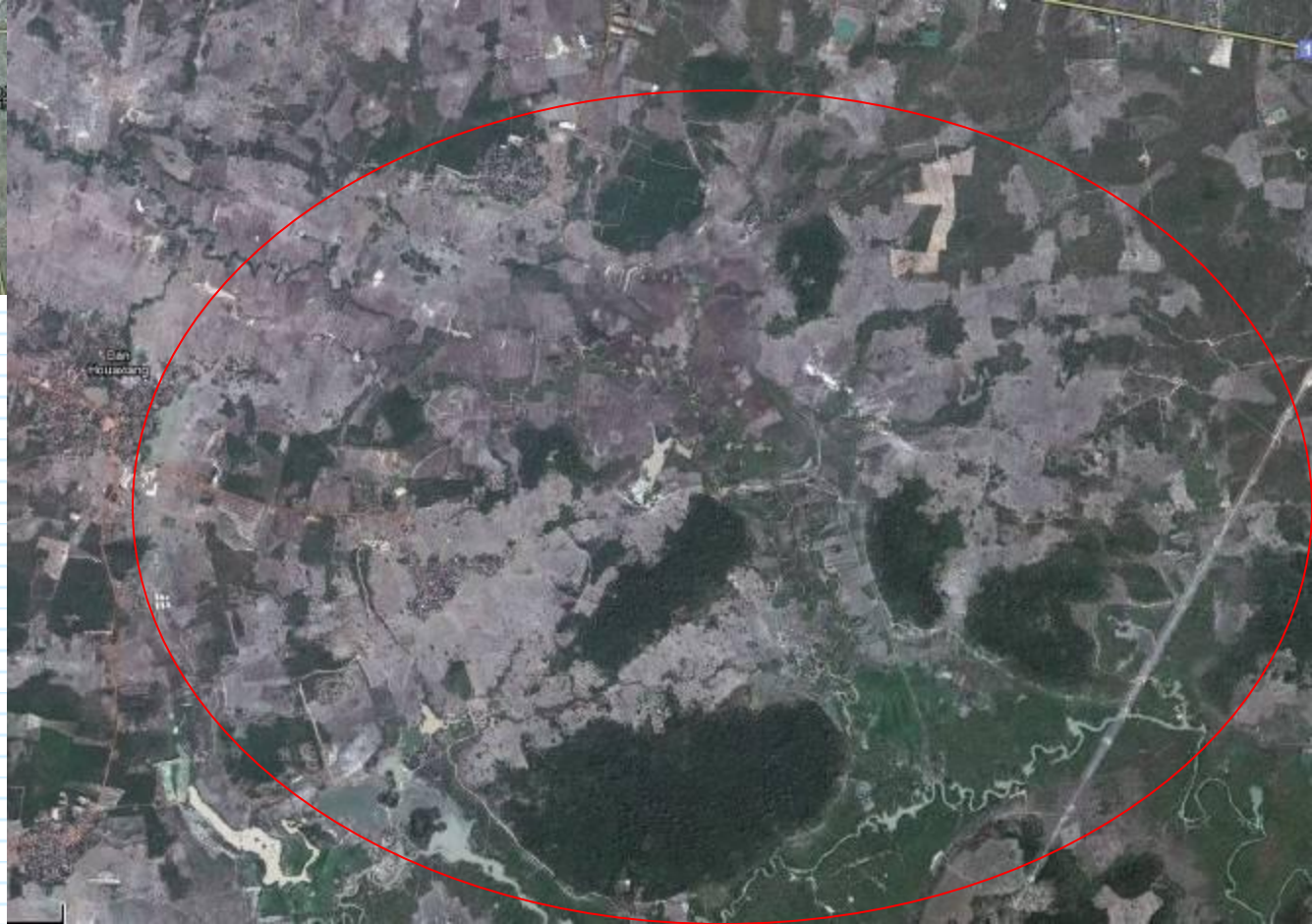


野中・宮川・足達 (2005)





ここがいい！

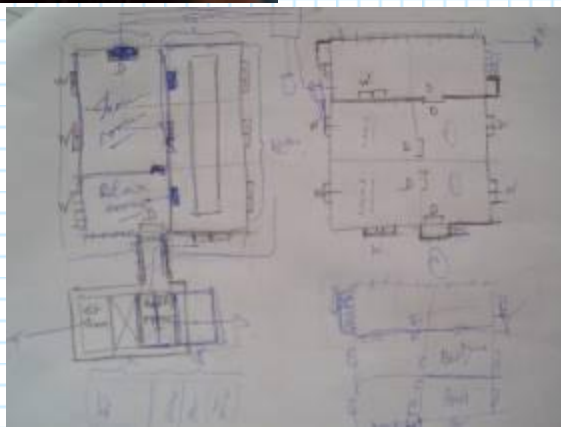


天水田
森
川



村の選定・調査ステーションの建設 2005年3月～

将来村人の使える施設にする



費用問題：科研費では建てられない・・・







完成式
2005年9月

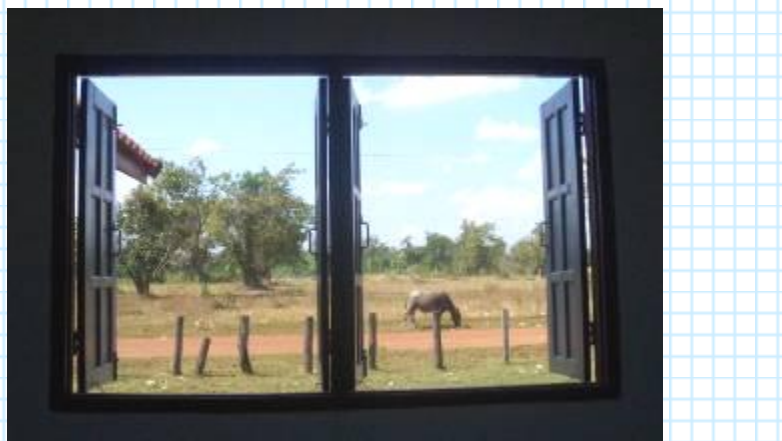








学校とも仲良く



村の守り神を引き取る





問題点とカイゼン

1階

床のペンキ汚れ **ふき取った**

壁の塗装 **やり直した**

建具(建て付け, 穴) **付け直した**

壁の穴 **塞いだ**

2階

床(仕上げ, 隙間) **磨いた**

階段(ガード, 傾斜) **これから取り付け**

壁・天井

外壁材

ドアカギ **取り付けた**

トイレ

トイレ設備 **取り替え**

トイレ床排水 **作り直し・タイル張り替え**

タンク **増設**

排水 **排水槽に直結**

エクステリア

門扉なし **工事依頼**

鉄格子, 網戸 **工事依頼**

その他

2階改修(外壁, 天井, 階段)

外塀 **総予算百万円**

セキュリティ





でかい家になった



Google map より

ステーション建設による住み込み調査 2005～

長期滞在の実現・終日参与観察 村への影響と調査成果

NAFRI Eco-history Study Project in the Vientiane Plain
— Nature, Resource-use and Daily Life in Kaythani District —
ZubZub Workshop 2006
ໂຄງການຄົ້ນຄວ້າການດຳລົງຊີວິດ ຂອງມະນຸດ ແລະ ທຳມະຊາດ

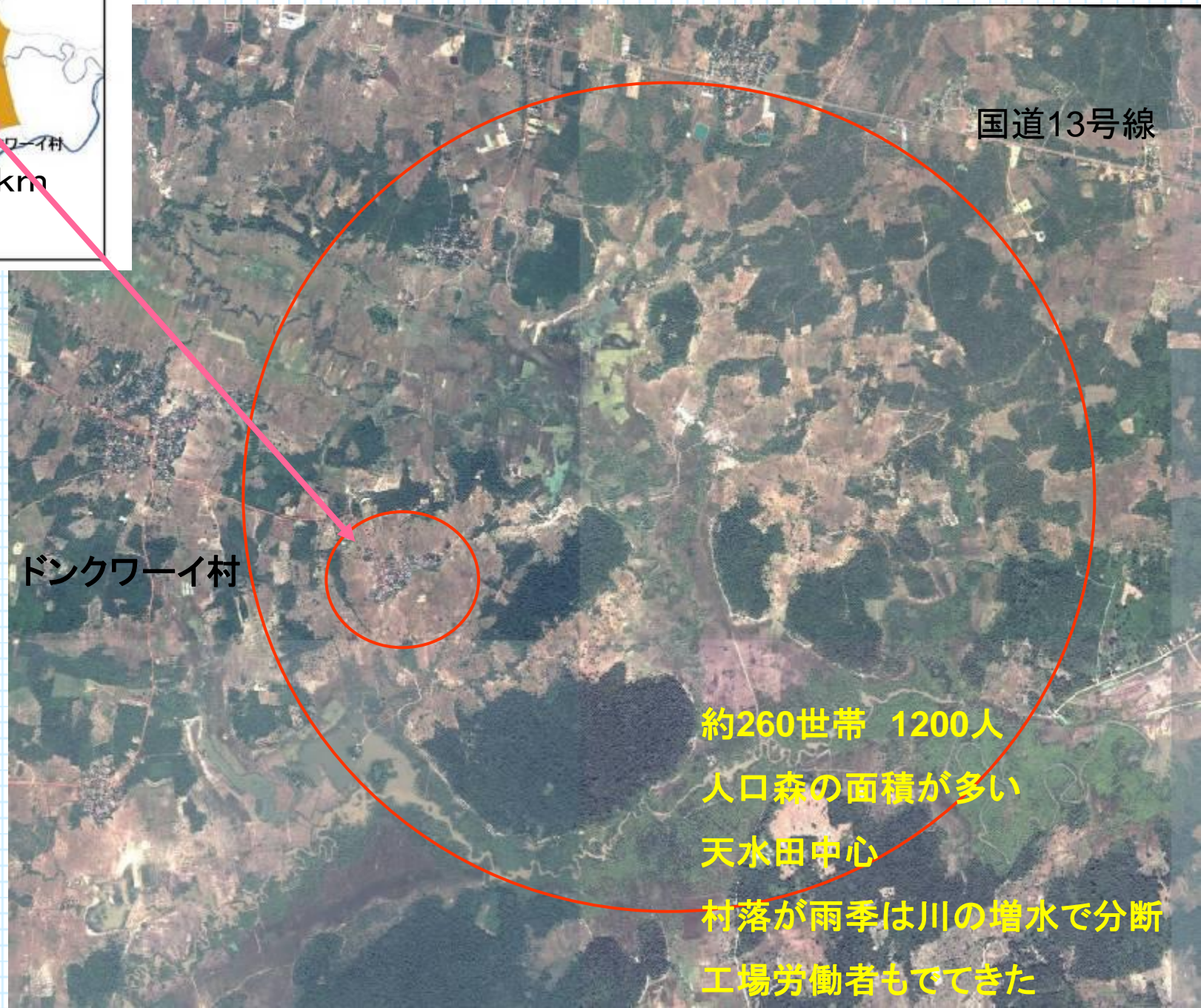


- Place : NAFRI
Date : March 1st 2006
13:00~17:00
- Kenichi Suzuki (NAFRI)**
Introduction: the eco-history study and survey in 2005
 - Yoshino Adachi (Wits Univ.), Shizuki Miyagawa (Wits Univ.) and Songkarn Siriyak (NAFRI)**
The relationship between natural resources utilization and land utilization in Kaythani district
 - Shizuki Miyagawa (Wits Univ.), Yoshino Adachi (Wits Univ.) and Songkarn Siriyak (NAFRI)**
Allocation of varieties and yield of rainfed rice cultivation in Donkhouai village of the Vientiane Plain
 - Akiko Inagaki (Hogya Sangyo Univ.)**
Study of resource-use dynamics through household survey : prospects and research questions
 - Kumiko Kato (Hogya Univ.) and Isara Thasana (Hogya Univ.)**
Chronological analysis of changes in Kaythani district and Donkhouai village
 - Yoshiko Hoshimura (Aichi Kogyo Univ.) and Kohji Okamoto (Hogya Univ.)**
Time-spatial allocative survey using GPS and GIS in Donkhouai village, Lao PDR
 - Keisuke Ono (Hogya Univ.)**
Water-level fluctuation and micro-geomorphology of the Vientiane plain, Lao PDR
 - Petrus Ajakca (Ryoto Univ.), Sumon Wibansa (Bio-museum Center of Lake Akum) and Yuvadee Pongpraprasit (Zhang Mai Univ.)**
Utilization of edible fresh water macroalgae (kai, tao and loe) in Lao PDR



快適・安全な勉強環境

ドンクワイ村 全世帯調査 2005/6年 2007年



感謝祭





村祭りでたこ焼き人気



実はツムギアリ



「虫は世界を救う！」へブレイク

日本よりも世界でウケた
オランダでの「虫食講義」



73223947.html

役立ち ▾ いろいろ ▾ 研究 ▾ 旅行 ▾

いと思った、ニュースや、YouTube 動画、USTREAM、ウェブサイト等をメリハリ地効かせてお届けしています。最新英産

このブログの読者になる (チェック)

＊ゴミで作ったホテル... | 記事一覧 | KARA、DSPメ...

2011-01-19 17:05:55

虫の料理を食べてCO2削減、牛肉より多くタンパク質を含んでいるんだぜ

テーマ: 海外ニュース 0 | Tweet: 2

いいね!

新着雨林を守り、二酸化炭素の排出量を減らすことができるだけでなく、食生活の改善や健康増進、食費削減にも繋がるとして、オランダの大学教授が虫を食べることを推奨している。

ワーヘニンゲン大学のArnold van Huis教授は、虫が同量の牛肉よりもたんぱく質を多く含み、低コストで飼育できる上、水の摂取量も少なく、二酸化炭素をあまり排出しないと説明。

Arnold van Huis教授



問題は心理的なのだと述べ、「子どもは問題なく虫を食べることができるが、食習慣が楽き上げられてしまった大人は食べられない。挑戦し慣れることだけが、思考を変えられる」と話した。

ス事は
【
等につく

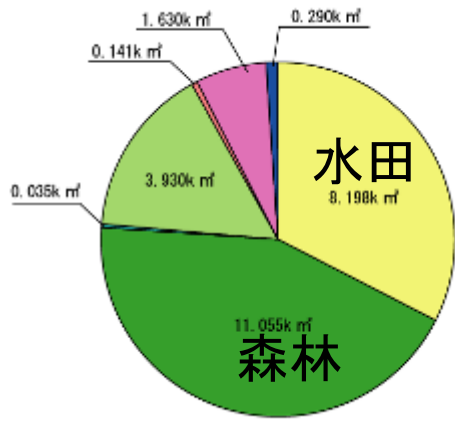
世界では



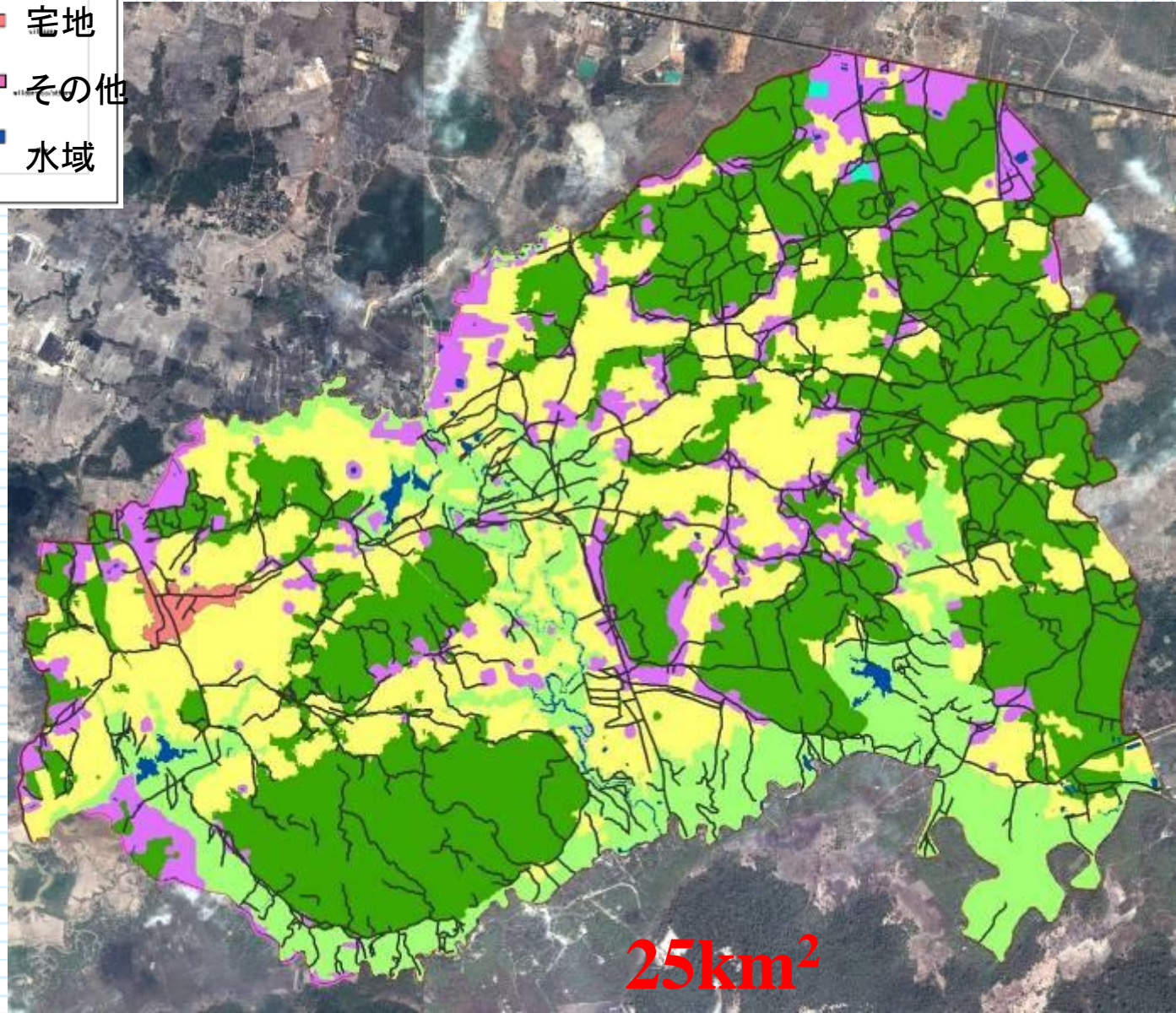
日本では当たり前すぎた??

平野一森と水に囲まれて

ドンクワイイ村の土地分類



- 水田 (rice field)
- 森林 (forest)
- 宅地 (residential)
- その他 (other)
- 水域 (water body)



水田と生き物<の利用>への注目

田んぼはイネを作るだけ？

天水田は生産性が低いのか？

いろんな生き物が生活できる

→豊かな環境を生み出す場でもある

生きものの営みから田んぼをとらえ、その生きものの利用から文化のおもしろさ、すばらしさを探る。

環境の見方、豊かさの価値観を広げる

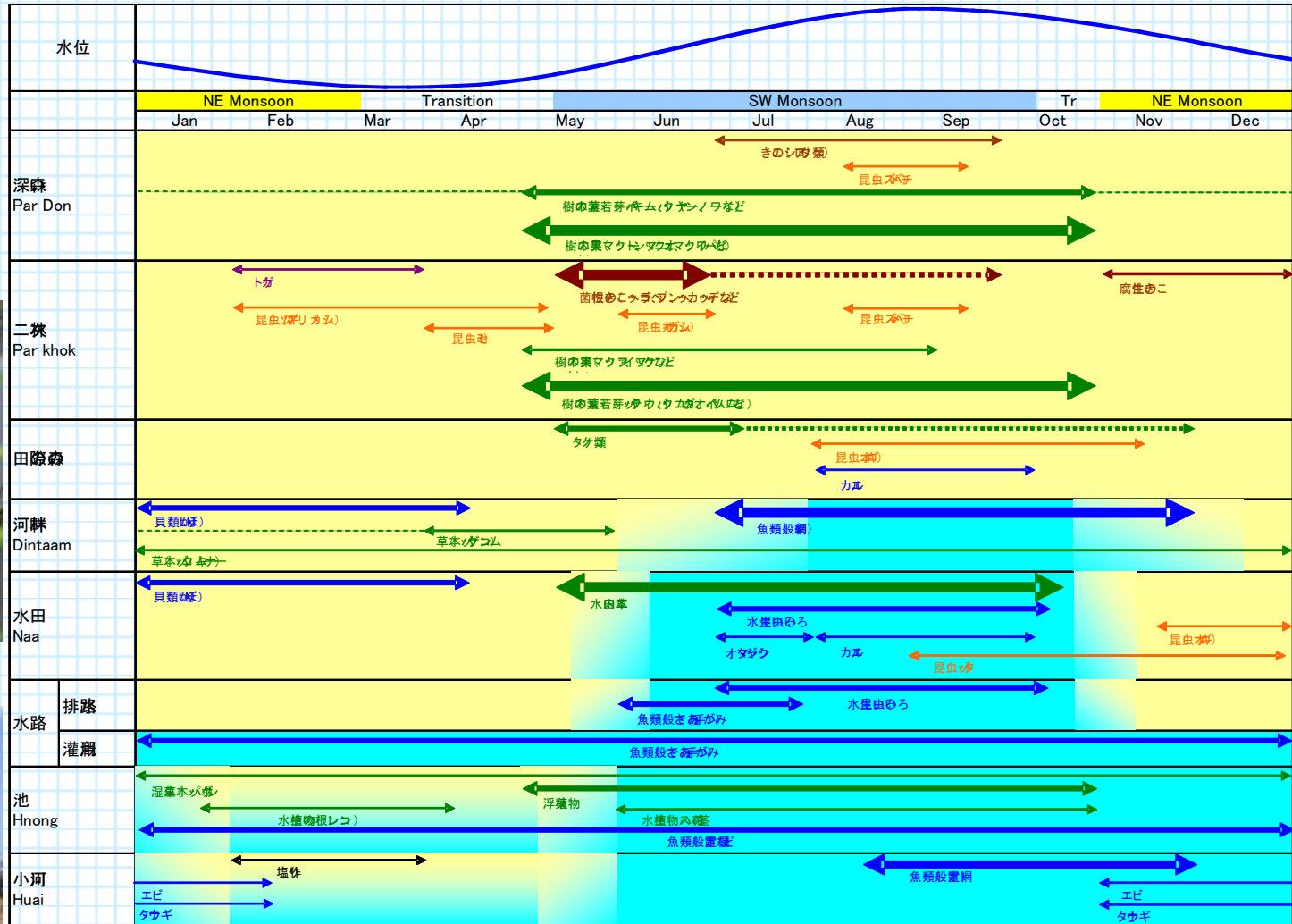
ラオス、アジアの人々への共感を作る

田んぼと生き物

米は欠かせない

さまざまな資源利用の柔軟なネットワーク

自給
交易
市場



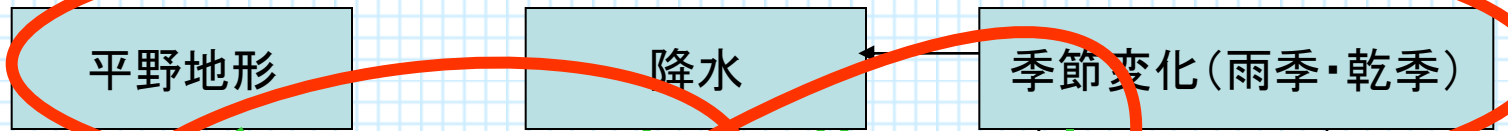
■ 陸域 ■ 水域

ビエンチャン平野村落の生態-生業システム

環境・土地

生態的特徴

人間活動

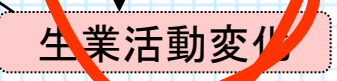
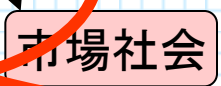
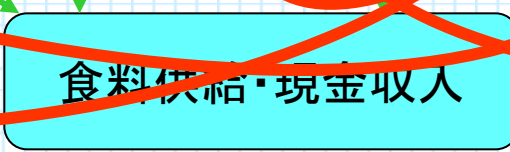
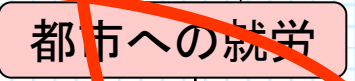
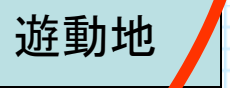


人工的な水供給困難

温暖化?



品種・作付地選択



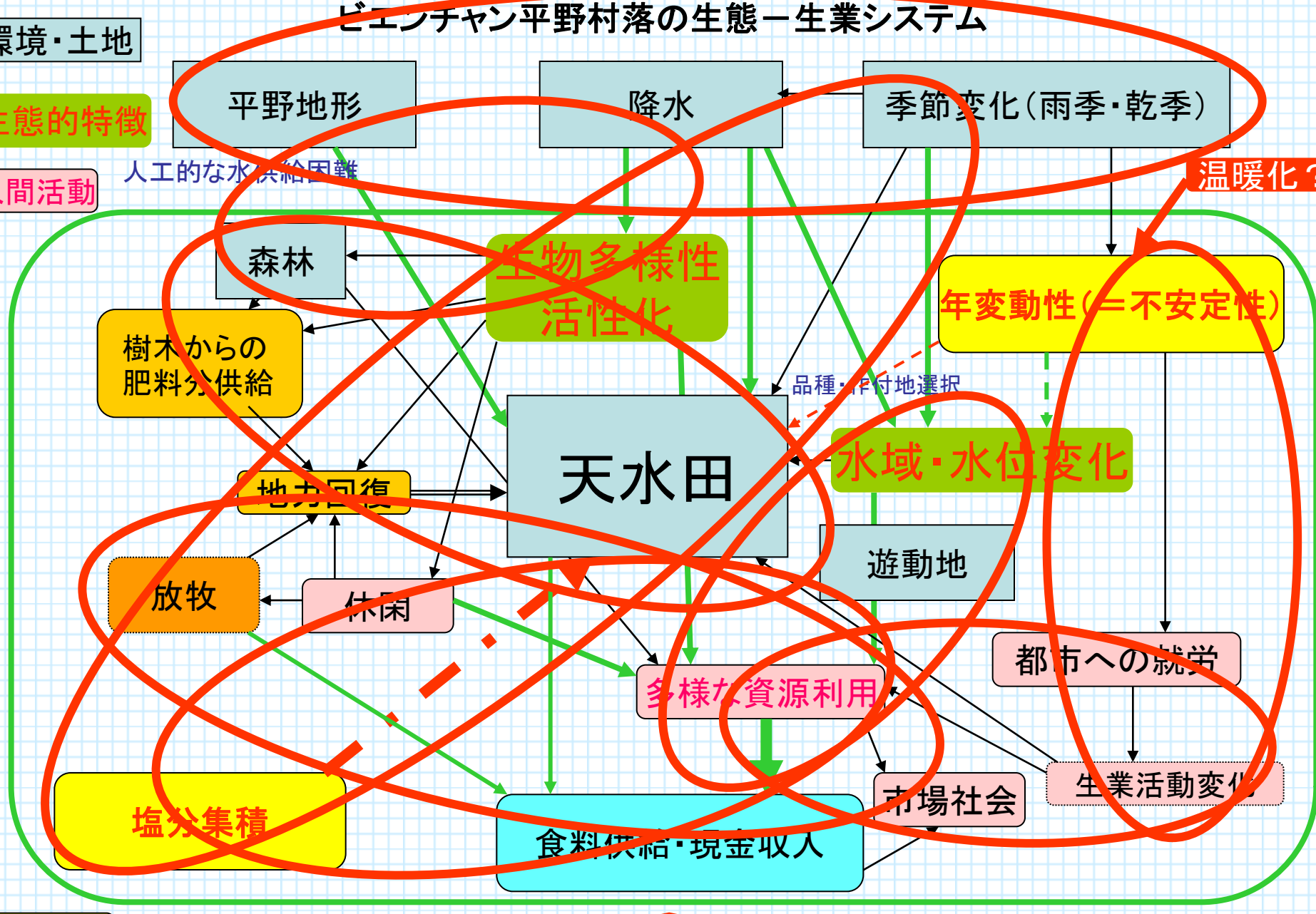
問題点

将来の問題

人口増加=食料需要増大

開発=土地改変

今後の課題



ラオスの暮らしからみる 田んぼの生きものの可能性・未来

1. 生きものの営みを生み出す
2. 場所を生きもので共有する
3. 生きものの多様性を味わう
4. 人も生きものも持続可能





詳しくは、拙著をご覧ください！



めこん 2008





プロジェクトの
終了
家の移管
2010年3月











フィールドワークの村への還元 調査成果と問題点

「海外フィールドワークにおける地理学知の還元モデルの構築に関する研究」
科学研究費基盤研究B(分担)(2008～2011年度)

個人-村-地域-国-世界？

ズブズブ隊・「住吉」が村にもたらしたものは？

誰に何をお返し？

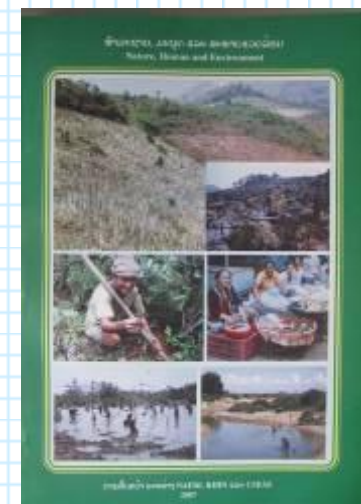
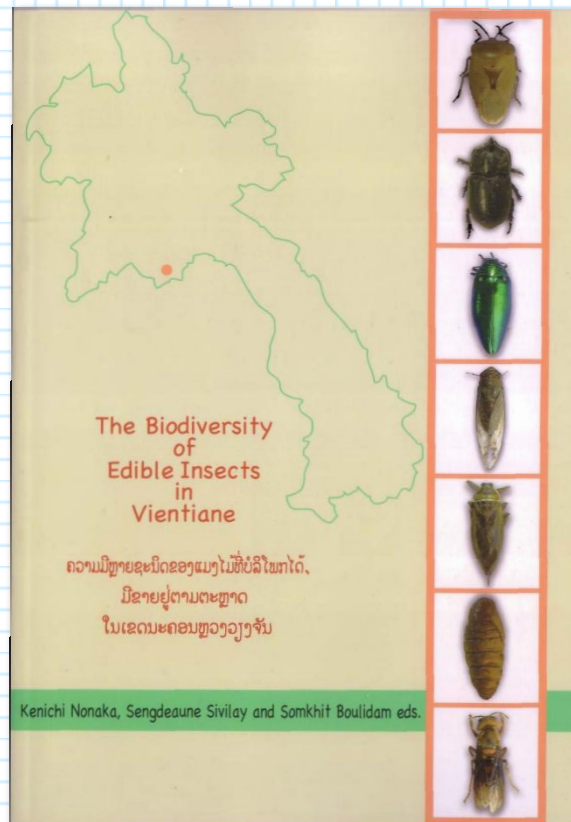
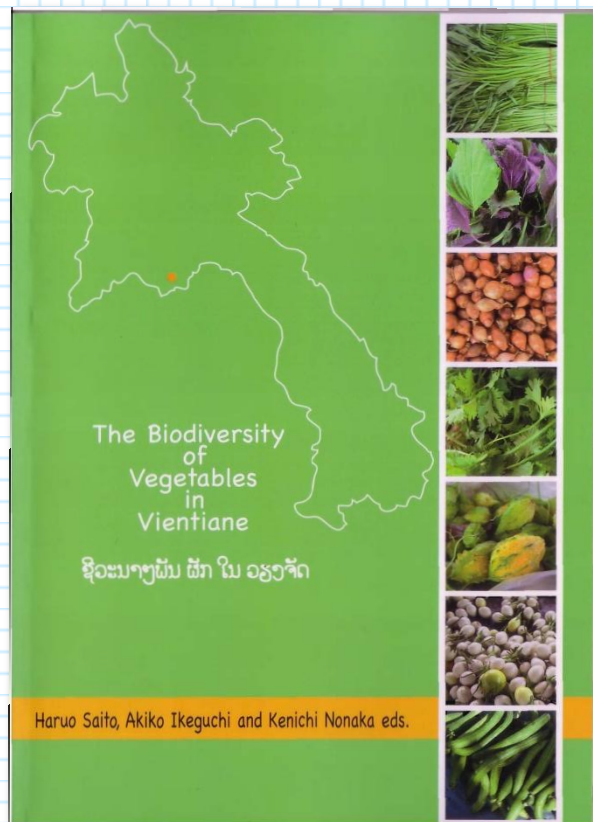
お世話になった人？個人と村・村人

感覚の違い くじ・・・不公平？

あげたものの今後は？

現地へ還元・・・学術的には論文いろいろ

他に 図鑑



特集号など



村の写真集

意図を伝える・評価を受ける



村の博物館作り

Dong Khuai Museum of Livelihood of the Vientiane Plain





人材育成(現地の人)



「カメムシは世界を救う！」か？

ラオスのホープ！ Mr. センドゥアン(NAFRI)



Japanese
University
Network
for
Circulation
and
Nutrition

JNCAN

2. フィールドワークの安心安全

超域文化学専攻におけるフィールドワーク教育の体系化 —危機管理とアシスト体制づくり—

立教大学G P 研究 (2009~2011)



立教大学 大学院 **超域文化学専攻**
2011年度学生募集

世界で
歩いて
書いて
話して
歌って
笑って
飲んで
寝転んで
買って
話して
食べて
遊んで
泣いて
踊って
濡れて
ほつて
だまされて
耕して

みる。

2011年度博士課程——前期課程【秋季・春季試験】・後期課程【春季試験】——
【秋季試験】2010年10月11日(月・祝) 【秋季出願受付】2010年8月31日(火)~9月3日(金)
【春季試験】2月22日(火) 【後期課程】2月23日(水) 【前期課程】©2010年度より地域学専攻から専攻変更しました。

詳しくはホームページをご覧ください▶▶▶<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/chirigaku/>

- フィールドワークを積極的に進めてきた関連大学院での取り組み調査
- 全国大学院生の意識調査
- フィールドワーク支援システムの設計

フィールドワークを推進する 他大学・研究機関へのヒアリング調査

- ・フィールドワーク教育動向について、
- ・フィールドワークの実施状況(カリキュラム、プログラム、活動内容)、大学院生の意識、危機管理体制、普及広報活動)調査

*これまでの実施対象:

熊本大学大学院1専攻、立命館大学1専攻、
広島大学大学院2専攻、九州大学大学院2
専攻、名古屋大学大学院1専攻

安全管理の意識不足

共同研究での経験蓄積と伝授



大学院への聞き取り調査

.....

大学院生のフィールドワーク状況アンケート調査

フィールドワーク実施内容、調査手順、問題点、
フィールドワークの意義、必要情報、要望

地理学・人類学に関連する全国の
30大学院・機関を対象として実施
* 13大学41名(男32、女9)から
回答。

個別研究へのサポート

調査動向の把握



安心安全のガイドブック作成

フィールドワークのための 安心安全手続きと情報

立教大学大学院超域文化学専攻

2011年

目次

はじめに

1. 巻頭の言葉
- 1) 感謝の言葉
- 2) 事故事例
- 3) 旅行保険

2. 事故発生時の対応

3. スマートフォンを利用したWeb-GIS/GPSによるフィールドワーク安心安全情報システム「フィールドワークサポートシステム」の活用

4. 安心安全情報

5. まとめ

発行年度
発行資料

大学院生のフィールドワークのための 安心安全の手引

立教大学大学院超域文化学専攻

2011年4月

目次

はじめに

1. フィールドワークの心がまえ

2. 調査の準備と諸手続

- 1) 調査に出かける前
- 2) 調査から戻った後
- 3) 緊急事態発生時

3. 病気に関する情報

- 1) ホームページ
- 2) 予防接種
- 3) メンタリアについて

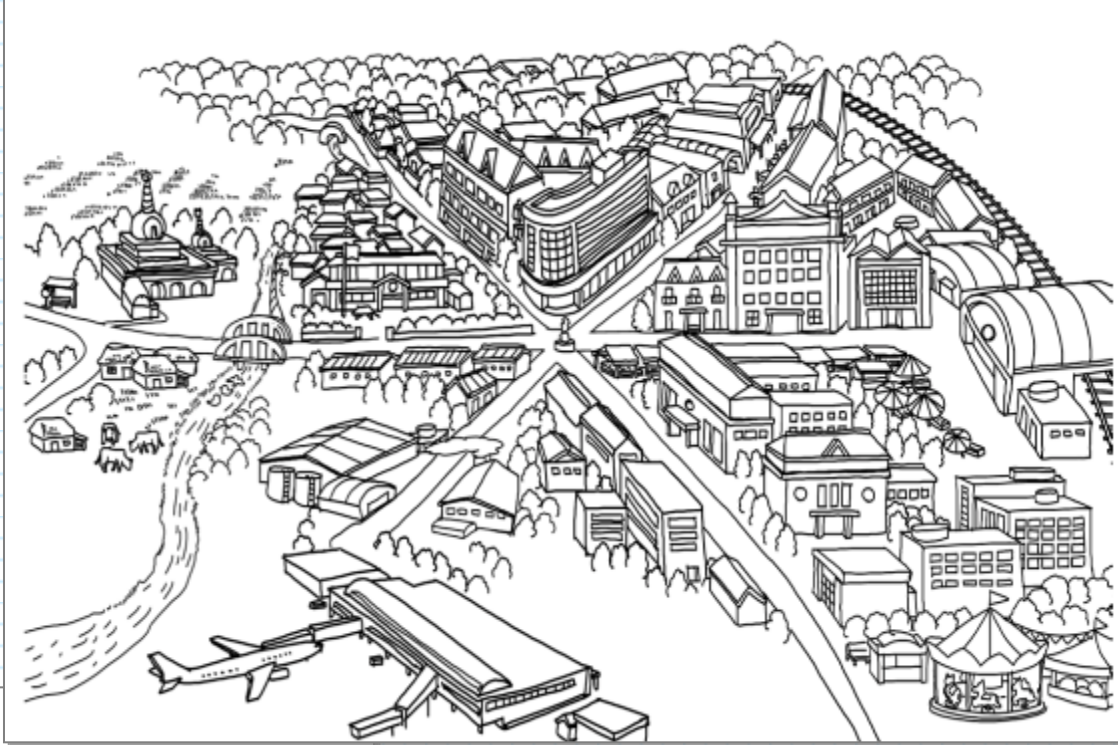
4. けがや事故への対応



安心安全 フィールドワークのための
トレーニングブック

フィールドワークの 「危険」に気付く KYTの応用

自然も



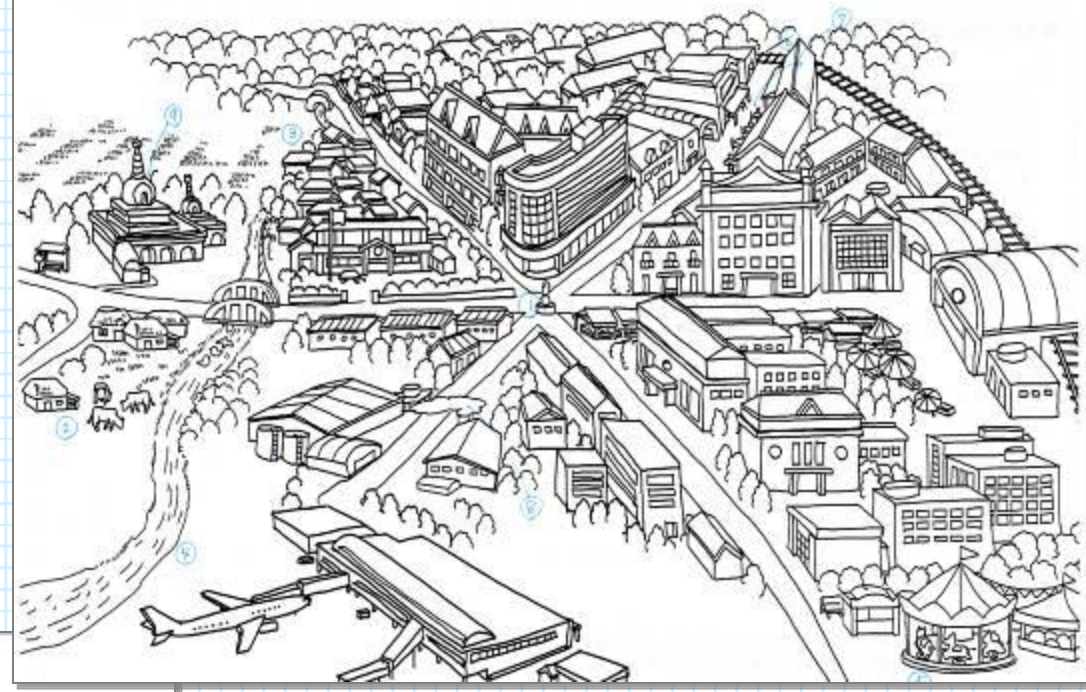
都市も

事故・病気・治安・・・
文化トラブル
他者への危害

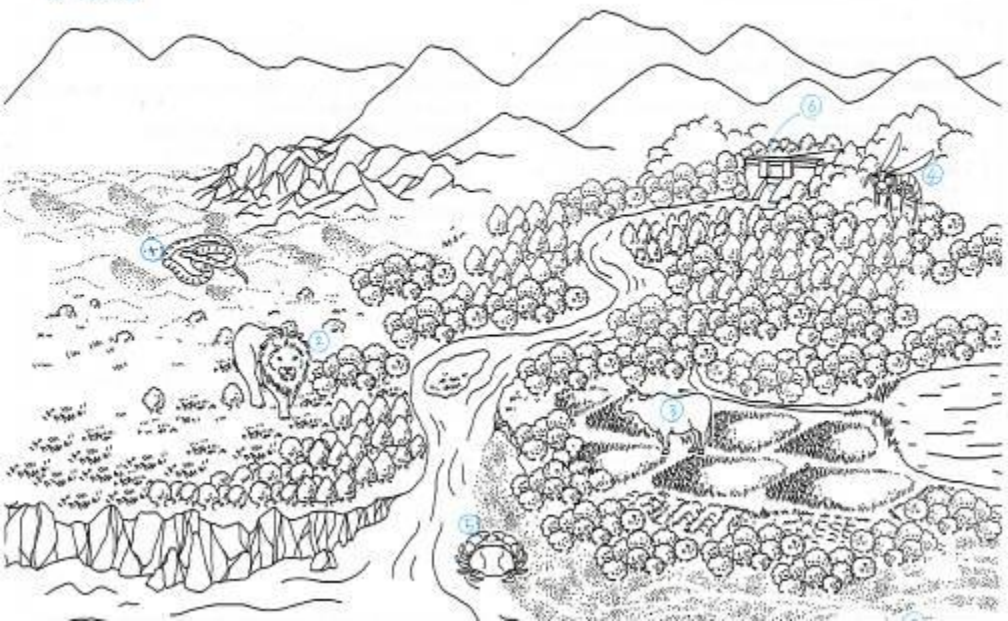


意識を共有する 広げる

① 信号のない ② 横断歩道の信号のない ③ 川にぶちまけられた車の洪水の可能性がある ④ 空港の1階が空、2階の可能性がある
⑤ 道路に車が横断歩道を渡る ⑥ 横断歩道のない ⑦ 道が4車線に、オランダの2車線 ⑧ 環境汚染 ⑨ 宗教系? 慎重に考える



①-④ 石や砂にぶちまけられた ⑤ 川にぶちまけられた車の洪水の可能性がある ⑥ 空港の1階が空、2階の可能性がある
⑦ 道が4車線に、オランダの2車線 ⑧ 環境汚染 ⑨ 宗教系? 慎重に考える
水川にぶちまけられた車の洪水の可能性がある
川にぶちまけられた車の洪水の可能性がある
水川にぶちまけられた



フィールドワーク・アシストシステム

携帯電話・Webページからの入力を可能とする
システム作り

情報の瞬時の伝達(双方向)

居所把握

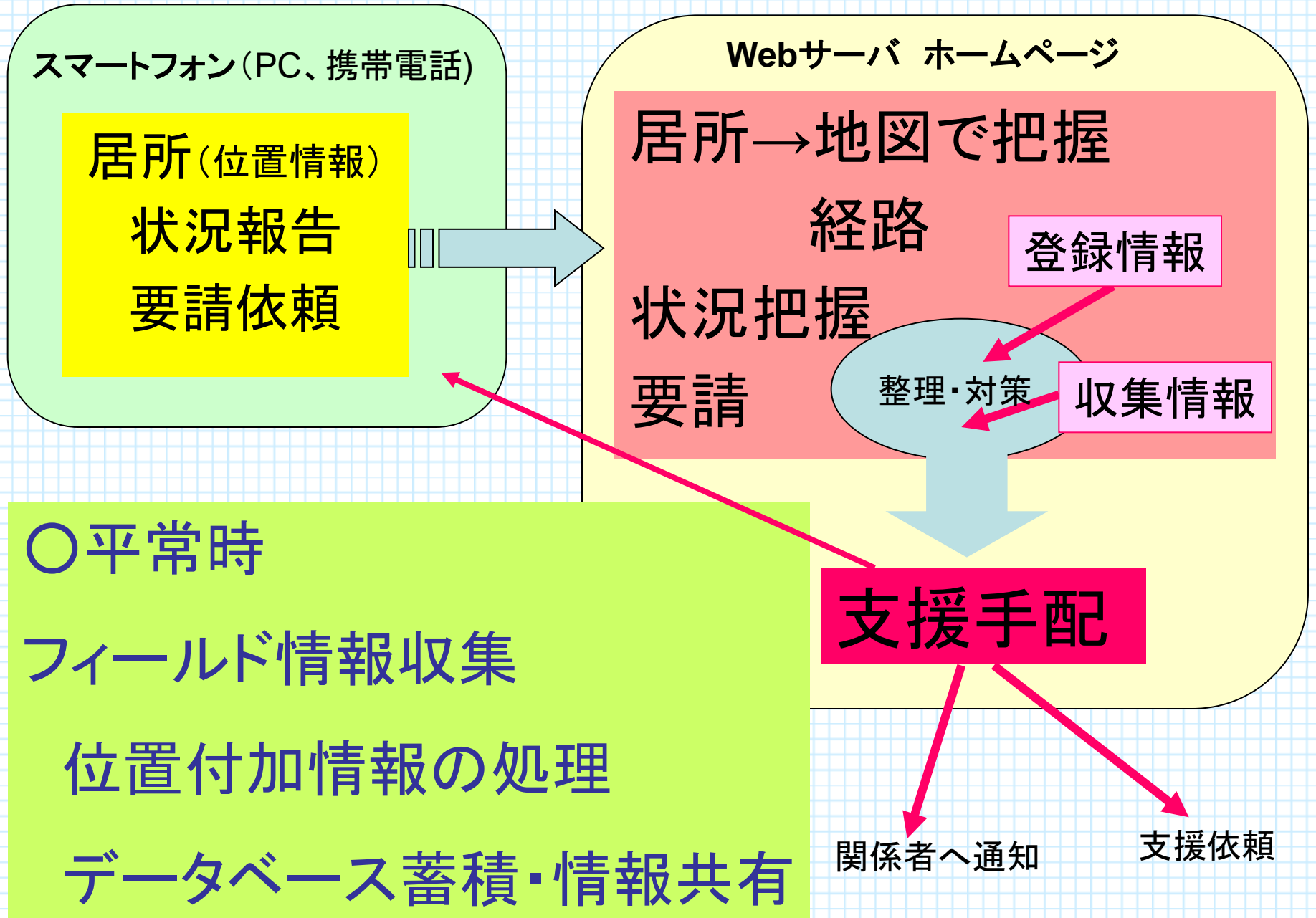
消息の軌跡

フィールドワークでの情報収集・蓄積への活用

コミュニケーションツール

フィールド情報の共有と発信

フィールド安心安全サポート



○平常時

フィールド情報収集

位置付加情報の処理

データベース蓄積・情報共有

フィールドワーク安心安全サポートのための Web-GIS/GPS システム

on-the-spot

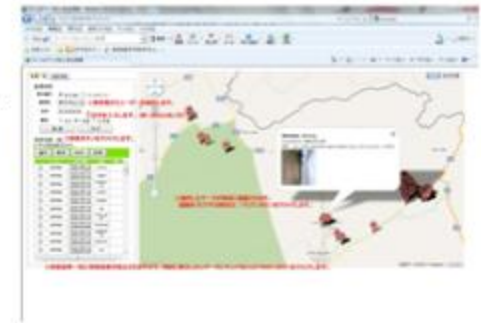
- ・自己測位できるスマートフォンを利用して、携帯電波の無いところ、海外でも位置情報を得ることが可能
- ・情報収集のための電子フィールドノートとしても活用可能
- ・移動記録がトレースとして地図上に表示可能



①閲覧対象者の検索

②閲覧対象日の入力

左側に該当データが表示される
地図画面にその位置とデータ
(画像、情報内容)が表示される



フィールド情報データベース

表示選択で「フィールドワーク」を選択し、あとは項目を選択し、同様にして閲覧できる。



2. スマートフォンによる情報送信

メニューから on-the-spot を選択



緊急通報

初期画面で項目を選択します。

* 危機が起こり、とにかく緊急の場合は「緊急通報」を

より詳細な情報送信の場合は「報告」を選択

情報入力には選択項目以外に手書きノートや画像も利用できます。



助けてえええええ!!

緊急通報

「助けてえええええ!!」を押せば即時に救助要請がその位置情報とともに通知されます。



支援要請

支援を要請したい場合には、

支援要請を選択し、

その内容を選択または記して、送信します。



3. 情報データベースとしての活用

フィールドワークにおいて、電子フィールドノートとしてGPSによる位置情報とデータ入力情報を送信によりサーバーに蓄積でき、地図上でみることができます。

- ①ファイルは自分で任意に作成できます。
- ②選択項目は、項目を任意に設定（追加・削除）できます。
- ③名称は、画面より入力します（文字パレット）
- ④コメントは、画面より入力します（文字パレット）
- ⑤写真、ノート（手書きメモ）を添付できます。

送信すれば、これらのデータが位置情報とともに送られます。



文字パレット

手書きノート



指先もしくはタッチペンで入力できます。

○ふだんからフィールドワークで使っていれば、いつも持ち歩いていられます。いざというときにもすぐに情報発信できます。でも、危機に直面しないよう、くれぐれも気をつけて調査をおこなってください。

猿害対策＋ミツバチ病気対策での実用・発展

サルどこネット

野中健一(総合地球環境学研究所)、戸田春華(名古屋大学環境学研究所)、真野宗一(アルプス社)、
鈴木義久(三重県)、田中賢益(バーチャルシステム)

Kenichi NAKAYAMA, Maruko TODA (Wayo Univ.), Eiichi MANO (Alps Mapping)
Yoshihisa SUZUKI (Ise Pref.), Tadayasu TANAKA (Vertex System)

キーワード: 猿害、GPS付携帯電話、ウェブGIS、三重県

ニホンザル(*Macaca fuscata*)以下サルは、森林を中心に生息している動物である。しかし近年、森林伐採や道路・住宅開発によるサルの生息地破壊、農村部の過疎・高齢化の進行などによって日本各地で生息地を人里へ広げている。サルによる人間への被害、すなわち「猿害」が、地域社会の統合的な課題として顕在化してきている。現段階では、サルの生息地拡大を食い止めることは非常に難しいため、拡大を最小限に抑えながら、被害をいかに軽減していくかを検討することが緊急に必要である。この報告では、三重県での猿害対策を支援するためのウェブGISを用いた情報システムの構築事例を述べる。



サルどこネット

http://gis.vertexsys.co.jp/SaruDokonet/

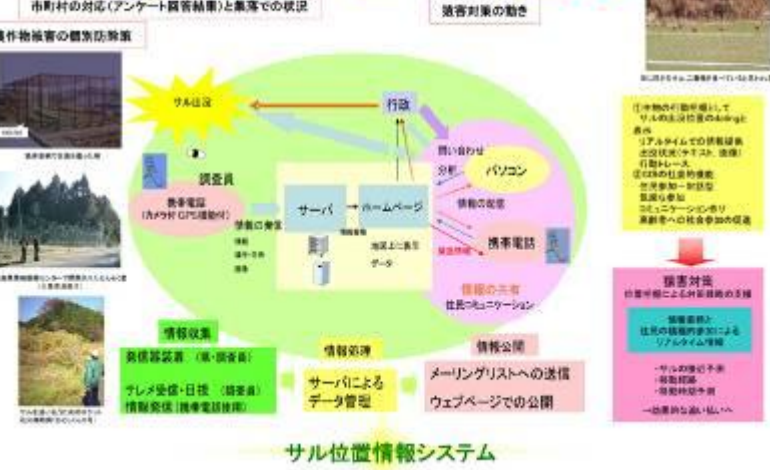
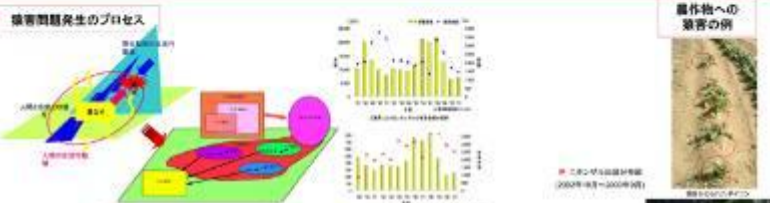
検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

検索結果: 検索結果一覧

初期画面

検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

検索結果: 検索結果一覧



検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

検索結果: 検索結果一覧

検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

検索結果: 検索結果一覧

検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

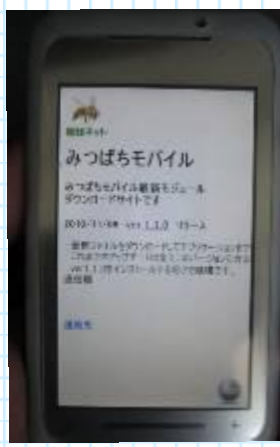
検索結果: 検索結果一覧

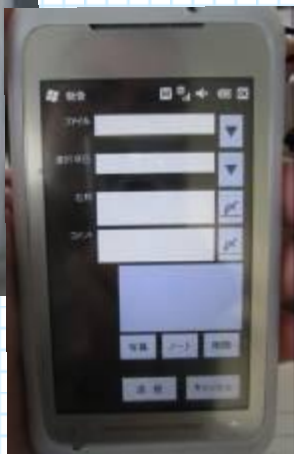
検索条件: 検索範囲、検索日、検索種別

検索結果: 検索結果一覧

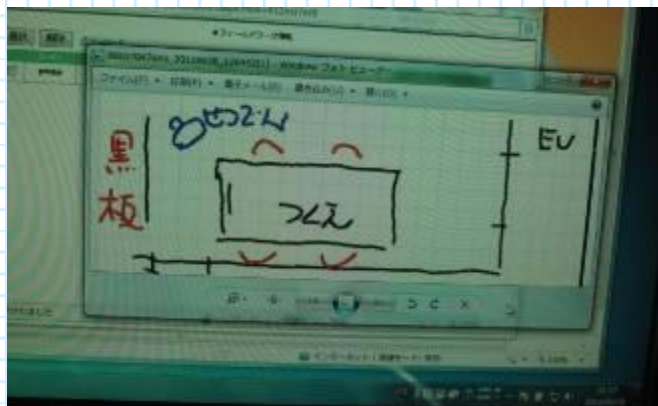
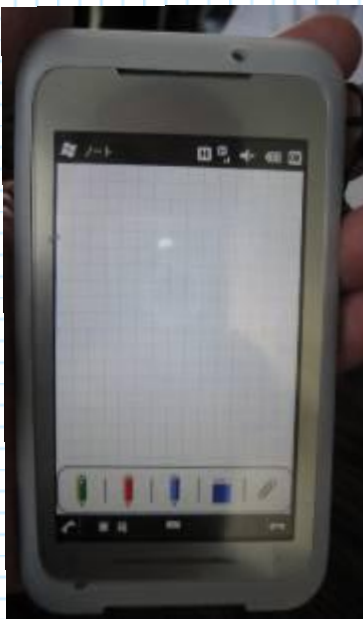
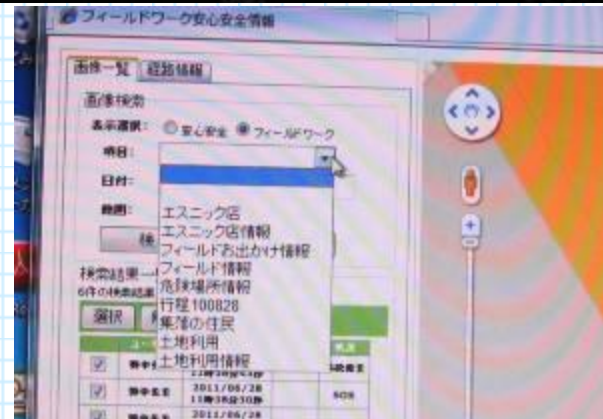
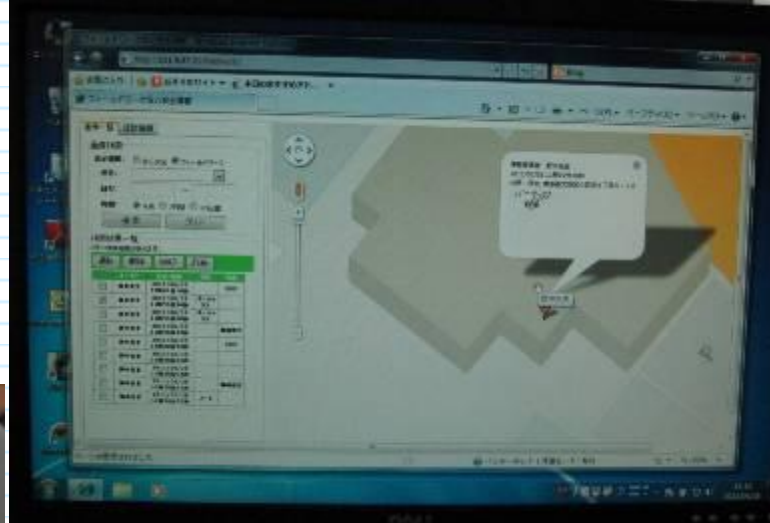
サルどこネットの活動

今後の課題





縦横自在



描画



今後の課題

1. 共同研究のあり方

大人数での村への圧力？

2. フィールドワーク教育 問題探索型の思考・検証へ

- ・マニュアル＝スタンダード作り
- ・問題意識共有(KYTの応用)

3. 情報共有

- ・フィールドへの関心
- ・安心安全情報
(スタンバイ治療など)





立教大学
大学院

超域文化学専攻
2012年度学生募集



2012年度博士課程——前期課程〔秋季・春季試験〕・後期課程〔春季試験〕——
【秋季試験】2011年10月9日(日) 【秋季出願受付】2011年8月30日(火)～9月2日(金)
【春季試験】〔前期課程・後期課程〕2012年2月(詳細は未定) ※2010年度より後期試験の名称を変更しました。

詳しくは
ホームページをご覧ください。 <http://www.rikkyo.ne.jp/grp/chirigaku/index.html>

ご静聴ありがとうございました

宣伝のページ